

たてもものめぐりのコツ 10カ条

建物と対峙するにあたり、心の片隅に覚えておきたいコツを伝授。読んで出かけると、ハッと気づくポイントが増えることうけあい!

参考に
してみ
て下
さい

高田 真氏
1978年広島生まれの都市プランナー。アーキテクチャー広島代表。

その1 歩きやすい靴で行くべし!

建物は街中だけでなく、山奥にあり、階段があることも。履き慣れた靴で行きましょう。

その2 まずは建物全体を見るべし!

建物の形はバラエティ豊か。「なぜこんな形なのかな?」と推理してみると楽しいですよ。



(例) 平和記念資料館の形には深い意味が込められています。

その3 装飾を探すべし!

柱頭飾りや彫り物などをじっくり観察してみましょう。当時の職人たちの腕前にびっくりすることも!?



(例) 旧マルヤマ商店事務所の外壁装飾。とても丁寧な仕事ぶりです。

その4 細かな形に注目すべし!

洋館の窓は縦長で、現代建築は横長。時代によって木製・鉄製・アルミ製と材質が変わっていくのも面白いです。



(例) 耕三寺潮聲閣の浴室の窓は珍しい丸形です。

その5 マナーを守るべし!

見学不可の建物の敷地に無断で入るのはやめましょう。建物内部の撮影は許可をとってからにする、路上駐車をしないなど。

その6 建物の素材にも注目すべし!

木なら柱・梁の骨組みを組むのが基本、レンガなら壁をつくるのが基本など、素材によって建て方が違います。



(例) 海上自衛隊第一術科学校は、レンガ造らしい重厚な壁が魅力的です。

その7 屋根裏もチェックすべし!

和風建築は太い梁が特徴で、洋館はトラスと呼ばれる三角形の構造が特徴。和風でも劇場や学校などはトラスを使うことも。



(例) ヤマトロックマシン東城工場の屋根裏は、美しいトラス構造です。

その8 建築家について調査すべし!

建築家についても調べてみましょう。同じ人が設計した他の建物も見に行くと比べると、思わぬ発見があることも。

その9 建築当時の状況を知るべし!

建物は、建てられた時代を写す鏡。その地域の人に昔話を聞いてみると、建物についての理解を深められるかもしれません。

その10 建物周辺を歩くべし!

ガイドに載っている建物だけでなく、周辺を歩いて名物料理を食べたりして、その建物がある地域を感じてみましょう。



(例) 乙女座に行ったら、御手洗の町も散歩してみよう。

プロカメラマンが教える

カッコいい たてももの撮り方



写真家
西田英俊 氏

フリーランスのカメラマンとして雑誌、広告など幅広く活動。独自の感性でドラマチックな写真を撮影、その写真は観る者を心をつかみ、ドキドキさせる不思議な魅力が……!

その1 あるがままを撮るべし!

被写界深度は深めに、手前から奥まできちんとピントを合わせて、カメラの絞りはF8~F11でカチッと撮るのがおすすめです。近くから撮影すると手前が強調された歪んだ写真になるので、遠くから望遠レンズを使って撮影の方が建物本来の美しさが表現できると思います。

その2 天候を味方にすべし!

晴天の日がベストと考えがちですが、コンクリート造りの建物は少し雨が降った後のしっとりとした質感が美しいこともあります。レンガ造りの建物はギラギラとした夏の太陽の下だと映えますね。目当ての建物の材質によって天候を見極めることがポイントです。



影の写りこみにも注意。同じ構図でも、少し日が陰ったタイミングの方が人や植木の影が消え、より建物が引き立った写真に。

その3 周囲の風景をからめて物語を作るべし!

建物の周りの自然や建造物などを入れることで、より建物の美しさを引き立てることが出来ます。「あの雲が来たら撮ろう!」「あの船が行くまで待とう」「近くの銅像を入れ込もう」など、妥協せず理想の構図を模索し、シャッタータイミングが来るまで粘る忍耐力が必要です。



同じ建物でも、撮り方によって「どのような立地で歴史を刻んできたのか」「どのような人が利用する建物なのか」など観る人に想像させる幅が生まれる。